

卒業生によるボランティア活動グループ“わ”会報

情報ぎゃらりー

第42号

情報ギャラリー第42号

発行日 2008年4月25日

編集 グループ“わ”広報部

発行者 郷 肥三

発行元 NPO法人社会還元センター

グループ“わ”

TEL(078)743-8101 FAX(078)743-8103

Eメール group-wa@wa-net.jp

本部業務組織の改革案纏まる

業務刷新委員会委員長 加藤勇治(美工 10期)

わ 設立後 10 年の節目の年に当たる昨年 9 月、本部役員、部長、区会長の中から選ばれた 10 名の委員に監査役 1 名を加えた 11 名の委員から成る「業務刷新委員会」が編成され、グループ わ の事業運営全般に亘って見直しを行い、将来に繋がる基盤固めに着手することになりました。事業運営の各分野において改善すべき課題は数多くある中で、委員全員が「改革の本丸」として挙げた「本部業務組織の再編問題」に的を絞り半年間集中審議を重ねた結果、漸く以下の改革案が纏まりました。

本部業務の現状と課題

委員会で指摘された事業運営上の問題点、課題を要約すると以下のとおりです。

1. グループ わ には基本理念(ビジョン)が共有化されていない。

柱となる事業運営上の基本理念がない結果、役職員が思い通りの認識で業務に取り組んでいる。統一した目標到達点が共有化されず、取り組みがバラバラ。

2. 役員の選出基準、方法が不透明。

(1) 役員の選出は、幹部役員の人縁や裁量で選出される傾向にあるが、選定基準、方法をオープンにし、ルールの求められる。

(2) オープンな推薦制の導入が望まれる。

3. 事業運営プロセス PLAN(企画)DOC(実行)SEE(遂行管理)のPLAN(企画)とSEE(遂行管理)の側面が殆ど機能していない。

(2) 企画機能が殆ど働いていない。

年次計画はあるが長期・中期各計画、基本ビジョンがない。

新規事業開拓の企画がない。

活性化の具体策や危機管理対策が未整備

役員個々、各組織(部会、区会)が果たすべき業務の運営や処理にかかわる規定・基準が未整備
過去の取扱情報が未整備

(1) 事業遂行面でのトレースが不完全

わ が実施している各種事業計画について進捗のトレースがなされていない。

地区会、部会での事業推進面で課題解決の場がほとんどない。

イベント実施面で各ボランティアグループ間の連携、調整が組織化されていない。

グループ わ の基本理念(案)検討

定款には事業目的(第3条市民の公益増進に寄与)と実施する9つの事業(第5条)が規定されているが、「事

業運営の柱となる基本理念(基本方針・重点事項)が共有化されていない。」との反省から、委員会で議論を重ね事業運営の拠り所とすべき重点事項5項目を「基本理念(ビジョン)」として以下のとおり纏めました。(基本理念案全文は3頁を参照。)

1. 市民が真に求める事業の誠実な遂行を第一義とする。

10周年記念標語「とどけたい、あなたのもとへ、わの愛を」を合言葉に会員は市民のために様々な事業に携わっています。事業の誠実な遂行こそが最優先すべき使命であることを明記しています。市民が真に求める事業は社会経済情勢の変化に応じ時代、時代で変化します。高齢者への福祉事業に加え、子どもの健全育成に係わる事業、環境保全啓発に係わる事業のウエイトが最近高まっています。市民の目線に立った事業開拓は今後の大きな課題です。

2. 市内全域における地域住民との交流推進と地域に密着したボランティア活動の推進、定着化を図る。

設立当初から「地域交流と地域社会への貢献」が求められてきました。

区会を中核とする地域社会への貢献は今後とも力を入れるべき重点課題です。

(次のページへ続く)

一人でも多くの参加で総会を盛り上げよう

平成 20 年度 グループ わ 定期総会

開催日 ; 5月27日(火) 場所 : シルバーカレッジホール

なお総会の議案書と出欠はがきを同封します。皆様のご出席をお待ちしています。

(前ページから続く)

3 . 常に人材(会員)の確保、増強、会員のレベルアップを図り、事業の安定的継続的な推進を期す。

“ わ ” の会員も高齢化が進み、毎年若返りを余儀なくされています。神戸市から委託事業も増え、事業の公共性が一段と高まってきました。それだけに人材の確保、増強、レベルアップの継続的取り組みはシルバ - 人材で成り立っているグル - プ わ にとっては極めて重要なテ - マとなっています。

4 . 総力を結集して組織の活性化を図り事業運営の効率化、健全化を推進する。

事業内容が多様化し、会員数が4~5年もすると2,000名を超えると予想される中で組織の活性化、効率化、健全化は最重要課題となることは否めません。

5 . 会員相互の融和促進と“ やりがい ” が実感できる組織風土づくりを推進する。

チームワークと“ やりがい ” づくりは組織運営の根幹をなす重要命題。組織活性化の精神的土台づくりとなるだけに、常に組織を挙げて取り組む必要があります。

役員選出基準・方法のルール化

役員の選出に明確な基準やルールがないまま不透明な方法で選出されている現状を改め、新規に役員選出内規を定め、これに基づき役員選出を行うことになりました。役員改選内規の骨子は次のとおり。

1 . 役員候補者の要件

- (1) 1年以上グル - プ わ の会員または賛助会員であること。ただし、新規加入者の推薦を妨げない。
- (2) 複数以上の運営委員会委員(役員、区会会長、部会長)が推薦する者であること。

2 . 選定方法

- (1) 毎年12月、理事長は各現任役員と個別面談し、次年度要改選役員を確認する。

- (2) 翌年1月の運営委員会で各委員から次年度新たに選任する役員候補者(上記1の要件を満たす)の推薦を求める。

- (3) 理事長は2月末を目処に推薦のあった新役員候補者と個別面談の上、新役員、候補者を選定する。
- (4) 理事長は3月の理事会に諮って承認を得た上、次期定時総会の議決を得て決定する。

3 . 役員の任期と改選要領

- (1) 役員の任期は原則2年以上とする。
- (2) 全役員を在任年数に応じ3つのグル - プに分け、毎年3分の1づつ古い役員グル - プから順次新役員に改選するロ - テ - ションを推進する。

本部業務を5業務に整理

前述の本部組織の現状と課題の中で指摘された事業運営のプロセスの弱点をカバーするために、本部が果たすべき業務を「企画」「総務」「財務」「広報」「事業」の5業務に区分けし、それぞれの業務区分毎に遂行すべき業務項目を別表のとおり整理しました。

特に、「企画」の業務内容は今まで殆ど手付かずの状態です。本部全体に及ぶ内容であり、本部以外の多くの人の意見を聞きながら検討しなければ解決できないうえ、今後事業を運営していく上で重要な事項が多い領域です。また、ボランティア・イベントを扱う「事業」については本部業務のみで検討できない面が多く、本部、区会、部会の相互連携と協力が求められる領域です。本部直轄事業は一部を除き当面現行どおりとしています。然るべき部会や区会への移管等なお検討すべき課題を残しています。

本部業務組織の再編

1 . 5業務部門、3内設委員会に再編成

本部組織を「企画」「総務」「財務」「広報」「事業」の5部門に組織替えします。(組織の再編成は4頁の付表2全体組織、本部組織を参照。)

新設の「企画」「事業」両部門は特に機能発揮が求められ、本来実施すべき本部業務のうち未実施事項が集中する部門だけに組織強化が重要です。

そのため、現行の広報部門が直轄する「広報委員会(現広報部会を改称)」と同様、企画、事業部門に内設の委員会を設置します。

(両委員会は業務刷新委員会の検討事項を引き継ぐ受け皿となります。)

なお、これら企画、広報、事業の各部門内設委員会には各部門担当役員を軸に広く運営委員会委員の中から委員を選抜し“ わ ” 各組織の意見が反映できる体制をねらっています。

- (1) 企画委員会の役割(検討事項)
 - 事業計画(中長期、年次)
 - 事業開拓
 - 各種制度の設計、改廃
 - 各種機構の再編
 - 活性化のための対策、企画
 - 各種制度のフィードバック
- (2) 事業運営委員会の役割(検討事項)
 - 複数のグル - プが関与するイベントの企画・実施
 - 部会・区会でのボランティア活動推進策の検討
 - 日常のボランティア手配実施
 - 年度計画の事業推進管理

2 . 役員の配置と理事会メンバーの増強

本部業務内容の整備に伴い、本部5業務には原則正・副2名の役員を配置し、現行同様12名体制で本部業務を執行します。

現在、運営機関として総会、理事会、運営委員会があります。臨時の機関として業務刷新委員会を設置し色々な問題点を検討してきました。理事会にオブザ - バ - として区会、部会より

(次のページへ続く)

(前ページから続く)

各代表(現在2名)が出席してはいますが制度上、何の権限もありませんので立場が中途半端です。区会、部会の意見を積極的に反映するために代表者(2~3名)を新たに理事として参画するように改善すべきです。

定款では理事の定数は12名で、全員が今本部に従事しています。会員数の増加、本部業務内容の拡充、区会、部会の意見反映といった諸事情を勘案すると理事定数を12名から18名を限度に改定することが望まれます。

グループわ 基本理念(案)

「再び学んで他のために」の神戸市シルバ-カレッジ建学精神に基づき、われわれは市民のための事業を誠実に遂行して一般市民の公益増進に寄与することを固く決意し、ここに事業運営の基本理念を定める。

1. 市民各層が真に求めるボランティア活動の実践に心掛け、それを誠実に遂行することを第一義とする。
2. 広く市内全域において地域住民との交流を推進し、地域に密着したボランティア活動の実践と、

その定着化を促進する。

3. 事業の公益性を自覚し、常に人材(会員)の確保と増強に努めるとともに資質面のレベルアップを図り、事業の安定的且つ継続的な推進を期す。
4. 会員の英知と実行力を結集し、常に組織の活性化を図り、事業運営の効率化と健全化を推進する。
5. 会員相互の融和を促進し、“やりがい”が実感できる組織風土づくりを推進する。

付表 1

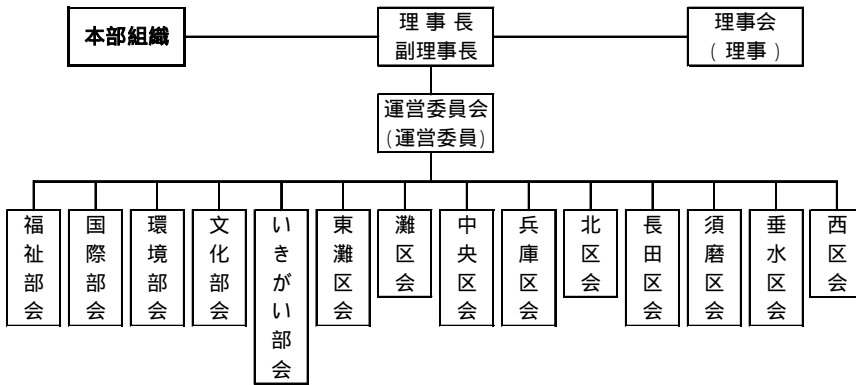
グループわ 本部業務内容

項目	内容(概略)	項目	内容(概略)			
企画部門		財務部門				
運営体制整備	組織整備、見直し、活性化 規約・規定・規則等の制定・整備 ・会議体の規定(理事会、運営委員会、その他) ・役員選出規定・職務分掌規定 ・本部運用規定(企画、総務、財務、広報、事業) ・委託・収益事業の規定(目的、役割) ・部会・区会の規定 危機管理(法、個人情報、文書、健康) 情報管理(基本方針) 総会(日程、議案書、案内、設営、届出)	収支計画	予算管理(決算報告、官庁届出)			
	事業全般計画とフォロー	ビジョン・中長期事業計画・年度計画の立案 ・長期ビジョン・中長期事業計画 ・年度計画、事業収益(予算案) ・会費 ・新規事業 ・助成金・補助金事業の情報収集と活用 年度計画のフォロー・結果報告・ノウハウの構築 ・新規事業 ・助成金・補助金事業	日常管理	現金出納業務 金融機関からの出金 委託・収益事業の報酬支払 請求書作成 貸金台帳作成 帳簿作成		
		情報管理		広報部門 会員に対する情報提供 ・広報誌の発行 ・パンフレットの作成 一般に対する情報提供 ・ホームページの製作 ・パンフレットの作成(案内書・パネル・映写等) 報道関係の広報活動 ・(行政の広報・新聞、テレビ等掲載、報道) 活動記録(写真、ビデオ)の収集と保管		
				事業推進	事業部門 事業推進状況フォロー(日程管理他) ・区会・部会 ・委託・収益事業 ・イベント・ボランティア活動	
					事業計画	委託・収益事業 イベント・ボランティア活動 (区会・部会含む)立案と企画書作成
						事業運営
組織運営	総務部門 組織運営とフォロー(日程管理) ・本部 ・会議体(理事会、運営委員会) ・着信メ-ル管理(閲覧、印刷、廃棄)					
	人事管理	各種ボランティア依頼の受付、各G手配 事業推進状況のトレ-ス、対策の立案 実施 区会、部会情報連携				
		資産管理	対外交渉(窓口・KSC・在校生)			
			日常管理	事務日程の作成 事務所(3S、給湯、ごみなど) 文具、備品ほか消耗品の管理・補充 電子機器、カメラなどの管理 KSC事務局との業務連絡 備品類の貸出管理 ボランティア活動報告トレ-ス管理指導		
				対外交渉(窓口・KSC・在校生)		

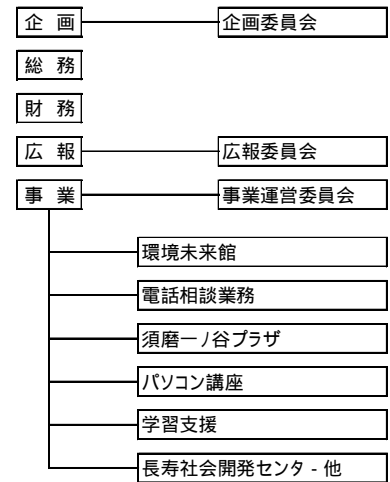
(次ページに続く)

付表 2

1. 全体組織



2. 本部組織 (事務局)



在校生向学習支援活動説明会開催

在校生、学習支援に強い関心



3月24日、25日の両日、シルバーカレッジ在校生(12期、13期、14期)による「19年度の振り返りの地域交流会」実施に合わせ、3回に分けグループわ主催「子どもたちの学習支援活動説明会」をカレッジ内で開催しました。

第1回 3月24日 13:00~14:30
主に北区、兵庫区在住者対象。

第2回 3月24日 14:40~16:10
主に東灘区、灘区、中央区、長田区、西区在住者対象。

第3回 3月25日 13:00~14:30
主に垂水区、須磨区在住者対象。

各回とも同じ内容で、先ず平成19年度学習支援活動の実績と新年度の学習支援活動の進め方を中心に活動全般の説明を行い、質疑応答の後、新年度新たに寄せられた支援要請校(32校)と各校の支援要請内容を参加者全員に紹介し、支援の意向確認を行いました。

3回合計で85名もの参加者があり、説明会は各回とも盛り上がりました。参加者の中には未登録自主参加者が24名を数え、子どもたちの学習支援活動への関心の高さが伺えました。各回とも学習支援活動の実践について活発な質疑がありました。

「在校生が地域交流の一環として実践している学校支援とグループわの学習支援との違いは何か」「学習支援活動には資格が要るか」「活動中の

事故(怪我)は保障してもらえるのか」など実に熱心な質問が相次ぎました。中には「小学校で実際ボランティア活動を行っているが、現場の教育のあり方にいろいろ申し上げたいことがある。わにはボランティア経験者の声を教育現場の実態改善に活かす責任があると考え、わの見解やいかに・・・」といった非常に前向きな意見まで飛び出し、今回の催しは極めて有意義でした。

今回の説明会で紹介した本年度支援要請校と支援要請内容は以下のとおりです。

[東灘区] 本山第3(算数・国語・生活科)、本山第2(特別支援)

[灘区] 六甲(算数・国語・昔のくらし)

[中央区] 宮本(特別支援)

[兵庫区] 和田岬(特別支援)

[北区] ひよどり台(算数・特別支援)、広陵(特別支援)、北五葉(特別支援)、泉台(特別支援)、八多(生活科・特別支援)、藤原台(特別支援)、鈴蘭台(算数・国語・特別支援)、桜の宮(図書ボランティア)、谷上(特別支援)、箕谷(昔遊び)、鹿の子台(特別支援)

[長田区] 真陽(特別支援)、長田(特別支援)、宮川(特別支援)

[須磨区] 松尾(特別支援)

[垂水区] 高丸(特別支援)、東舞子

(特別支援) 福田(特別支援)、下畑台(特別支援)、多聞南(特別支援)、青陽西養(トライやるウィーク)、東垂水(算数・国語・特別支援)、つつじが丘(学習支援)

[西区] 出合(特別支援)、竹の台(特別支援)、東町(特別支援)、伊川谷(特別支援)、井吹東(特別支援)、櫛谷(算数)、木津(学習支援)

会員の皆さん(既登録会員外の方でも志のある方なら歓迎)の中で、上記要請校で「学習支援活動をやってもよい」と考えられる方は遠慮なく、お申し出下さい。(学習支援活動についての各種照会も承ります。)

私たちの学習支援活動には各方面から熱い期待が寄せられ市内各小学校(養護学校)からの支援要請が急増しております。学校の先生方の負担が少しでも軽減され、子どもたちと先生方が共に喜んでいただけたら、そしてそのことで私たち自身が“元気”を貰えたらこんな喜ばしいことはありません。難しい資格は要りません。グループわでは一人でも多くの会員の皆様に、「将来ある子どもたちの学習支援活動」に加わっていただくことを願っています。

(次のページに続く)

**「小学生とともに
勉強しながら楽しむ」
子どもたちの学習支援委員会**

本活動は平成20年度を迎え4年目に入りました。多くの支援者によるひたむきな努力には頭が下がる思いがします。平成19年度の活動報告の一部を抜粋しお届けいたします。(中沢保夫記)

「なかよし学級の児童たち」

伊川谷小学校 西田圭一



子どもの体調等により、感情が左右されるときへの対応にとまどうことがあります。一方、順調にいく場合は、子どもは喜びと満足感を表すので、支援している我々も満足です。

平成20年4月以降、3年生の授業に環境学習が取り入れられます。そのことへの対応を校長先生から依頼されました。

「全教科にわたる少人数

学習指導補助」

木津小学校 宮崎芳江



3学期に担当の先生よりたんぼ学級の応援を頼まれ5回行きました。能力的には普通学級の子ともかわりないようみえます。しかし、全教科になるとじっと座ってられないこともあり、直ぐに飽きてしまい、やはり無理かなと思いました。

普通学級にも、ハンディを乗りこえ頑張っている子どもがいますが親の意向で普通学級に入れたいというケースがあります。子どものことを考えれば、普通学級とたんぼ学級の両方をうまく行き来して学習をする方が幸せだと思います。私がみた子どもたちはとても楽しく過ごしているように思いました。

「算数の学力促進教室」

桜が丘小学校 福家博子

参加児童は保護者の了承のもと希望する3、4年生である。放課後の6校時を利用して学年の係りの先



生と一緒に和やかな雰囲気
気で取り組んでいる。

個々の学力に合ったプ
リント2~3枚が用意さ

れており、考え方とやり方を説明し、採点して励ます。また、タイミングよく声をかけて褒める。あくまで児童のやる気を助けるのがボランティアである。

冗談を言い合ったり、折り紙をおみやげにしたり、児童と親しみ仲よくなるのが、大切だと思っている。

学習支援活動照会先

グループわ 本部事務局
学習支援担当 加藤・増金
TEL 743-8101
FAX 743-3830

「特別支援活動の1年間を終えて」

東町小学校 黒本嵯登美

支援という程のことはなにもしてなかったのですが、子どものそばにより添い一緒に授業を受けたり、遊んだり私の方が楽しくすごさせてもらえました。

小学校での学習の進め方、行事の様子をかい間見せてもらい、勉強になりました。週1回だけで本当に学校のお役に立っているのか・・・が気になるところです。

最後の日に、その子のお母さんからお手紙をいただき、その子が私の行く日を楽しみにしていたということを書いてくださっていたのがうれしかったです。

季節の草花

ドクダミ

生8-文 久保 知彦

ドクダミは日陰の湿地に自生する植物で、黒ずんだ葉の縁は赤みを帯びており、独特のにおいがあるのと、名前からして毒がありそうですが、昔から「十薬」という名で、万病に効く薬草として知られています。

ドクダミの名の由来は「毒溜み」「毒矯め」「毒痛み」「毒彩」など、色々あるようですがよくわかりません。

ドクダミ科の多年草で日本全土に分布します。4枚の白い花びらのように見えるのは、苞(ほう)と呼ばれるもので、花びらはなく、紡錘状の黄色の部分に雄しべの先端が密集して、これが花です。

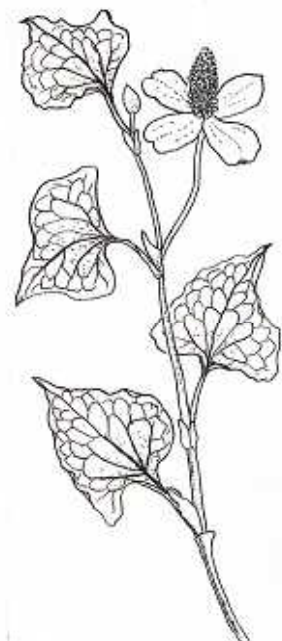
生の葉を化膿した部分に貼ると膿を吸い出す効果があり、あせも・湿疹には「ドクダミ風呂」もありますが、においが強烈なのでどうでしょう。

乾燥すると臭いなくなり、これを煎じて飲むと、利尿作用・緩下作用・血圧降下などの効果があります。化粧水の材料にもなります。

塩ゆでしてから、てんぷらや、味噌とみりんであえて食べることができるようです。

「どくだみや 真昼の闇の
白十字」

川端茅舎



本部

一ノ谷プラザは運営を継続

副理事長(生環10期)上田 市夫

須磨一ノ谷プラザの管理運営業務は、わ が新しい活動分野として平成19年4月に進出した初の自主事業です。わ がこれに取り組んだ経緯と社会的責任等を総合的に勘案して引き続き平成20年度も取り組むことになりました。この施設は、前身の旧「神戸市勤労会館海の家」の1年間の休業の後を受けたもので、設備の不備と老朽化・立地の不利などマイナス要因が重なって19年度の貸室稼働率は20.6%と低迷しました。この貸し室業務の管理運営には、30名を越えるわの会員が日々交代で執務していますが、顧客からも、ボランティアによる運営に評価をいただいております。利用料金が低廉であることなどからリピーターの定着も見られます。一方、須磨区に要望していた設備改善も徐々に進み、各部屋のエアコン整備等も実現しました。今後も館内の設備の改善を求めて行きたいと思っております。新年度は、1年間の実績を踏まえて区

役所などとさらに連携を深め、地域やグループの方々との協働により、愛される須磨一ノ谷プラザになるよう、スタッフが一丸となって、社会貢献のあり方を探り、より良い運営を目指します。

会員の皆様には、仲間と誘い合わせて、風光明媚な源平ゆかりの須磨の浦で、サークル活動やグループの勉強会などに是非ご利用ください。ロケーションは、謡曲・句会・歌会・絵画のしづらえにピッタリです。弁当などの出前利用で中身の濃い会食もできます。そして1人でも多くの利用者が増えますようPR活動にもお力添えをお願いします。

わのホームページの活用を

広報部長(国際11期)長谷川 洸士

平成20年4月から、ホームページの内容更新が、広報委員会の手で部分的に自由に扱うことが出来ることになりました。

従来のアップロードは、いろいろの制約があり情報提供の迅速性に対応することができなかったが、プロバイダーとの契約条件の変更により、可能となりました。地区会、部会の活動状況、情報の共有、意見交換などに活用していただきたいと思います。

周知すべき情報は、機会ある毎に地区会長、部会長を通じて広報部にご連絡ください。待っています。

ボランティアさん募集

詳細は、グループわ事務局まで

- 1、にこにこハウス(しあわせの村内 球技場西側)

活動の内容	にこにこハウスに入所している重症心身障害児の入浴後のドライヤーかけおよび靴下の着脱作業	
	喫茶ボランティアで運営スタッフのサポート	
活動日時	月、水、金 ; 14:00~16:00	
	木 ; 10:00~12:00、13:30~15:30	
- 2、神戸市立医療センター西市民病院

活動の内容	外来患者の受付案内	移動図書館のお世話
	入院患者の話し相手	
	入院患者の院内散歩、売店への付き添い	
活動日時	月~金 午前または午後	

マイカーの自損事故への見舞金制度がスタート

保険担当(副理事長 生環10期)上田 市夫

会員が、わのイベントやボランティア活動に付随して、マイカーで所要の資材等をイベント等の会場に搬送し、または撤収した資材を所定の場所に搬送する途上で発生した偶発的な自動車自損事故に対応するため、新たに見舞金制度をつくりました。

わは、わの責任でおこなう本部、部会、区会のイベント等で遭遇した会員の不慮の事故に備えてNPO活動総合保険に加入しておりますが、イベント等の資材運搬にマイカーを使用して自損事故が発生しても、この修繕費についてはNPO活動総合保険の適用はありません。そこで、この保険適用外の自損事故に備えて、マイカー提供の善意に応えるためにわ 独自で見舞金規定をつくったものです。この規定は、平成20年4月1日から適用します。

見舞金は、自損事故車両の修繕費の2分の1以内で、かつ25,000円以内です。

見舞金支給の要件は、資材運搬にマイカーを使用するについて、あらかじめ当該イベント責任者の承認があること 当該イベントの責任者は、このマイカーの使用を承認したときは、理事長に報告すること イベントに使用するマイカーは、自動車保険に加入したものであること イベントの責任者は、該当車両の自損事故が発生したときは、事故の概要を理事長に報告すること マイカーの所有者は、該当する自損事故に遭遇したときは、当該イベントの責任者と連帯して「マイカー自損事故報告書」を理事長に提出すること 見舞金の請求には、所定の「見舞金請求書」を提出すること などです。

詳しいことは、わ事務局の保険担当にお問い合わせください。

東灘区会

幼稚園児と野菜作り

園 7 東灘 富永征児

神戸市立遊喜幼稚園で食育推進ボランティアをはじめて満3年がすぎ、いろいろな野菜作りを園児と共に楽しんできました。

園児たちがタネをまき、芽が出てそしてその成長過程をその都度先生方に教わっているようです。野菜の種類は園児がよろこぶ根菜類が主で、畑には大根・タマネギ・ジャガイモ・サツマ芋など。大型プランターにはコカブ・ミニ人参・ピーマン等を、連作障害を避けるように輪作に心がけ、収穫時に園児が喜ぶ顔を思いうかべながら作業をしています。でも時として不作の場合があり園児の期待を裏切ったときは、本当に申し訳なくすまない気持ち一杯です。今年3月には4才児とジャガイモの種芋を植え、6月頃の収穫が楽しみです。

遊喜幼稚園とのお付き合いは野菜作りのみならず、いろいろな行事に招

待をうけ交流を深めています。例えば今年の2月に「せいかつはっぴょうかい」に招待され、園児たちが童話の世界に夢を広げ、友達と心を合わせて表現するかわいらしい姿を観望しました。4才児・5才児が助けあい、手を取りあってのお遊戯、元気よく大きな声でのお歌。楽しく元気を貰ったひとときでした。

3月には修了証書授与式(卒園式)にも来賓として招待され、私たちの仲間3名と列席しました。園児たちはそれぞれ園長から修了証を受け、将来の夢を語り、男の子はサッカー選手・女の子はケーキ屋さんが多かったです。グループわとしても卒園児に何か記念品をと思い、観葉植物(アイビー・テーブルヤシなど)に「お祝の言葉」を添えて贈りました。

ところで、この食育推進を企画した神戸県民局農政課は、当初から平成14年度から19年度の5か年間の事業としており、3月末に幼稚園並びに私共に県担当者から本年度をもって事業打ち切りの連絡がありました。

しかし、遊喜幼稚園としては今迄

どおり、グループわに食育推進ボランティアを是非継続してほしい旨、山本園長自ら強い申し入れがありました。ただ、同園長は4月に移動されますが、園としての方針には変更がないと思われ、私共としては、今後とも園児の笑顔、嬌声に包まれながら活動を続けていきたいと思えます。



「せいかつはっぴょうかい」風景
(H20.2.16)

長田区会

中国健康体操(錬功十八法)

美 8 松本 治司

県立長田高等学校の南側に「観音山」と言う丘があります。以前この丘の麓には長田図書館がありました。が、図書館の移転後は公園になり、今は地域の人達の憩いの場として親しまれています。今年も観音山名物の桜の花が綺麗に咲きました、そして、大勢の人達が花の下で弁当をひろげ、また歌や踊で賑やかな花見を楽しみました。

その観音山で地域の人達が毎日「早朝のラジオ体操」を行っています。6時頃から民謡の踊りがあって、お馴染みのラジオ体操の歌が始まる頃には70人程の人達が集まります。

その参加した人達には数年前からラジオ体操の他にもう一つの楽しみが増えました。それは「中国健康体操」です。ラジオ体操の放送が終わりますと、今度は胡弓の音色が静かに観音山を包みます。

その音色が帰る人達の足を止め皆さんが指導員の元に輪になって集まり、静かですが力強い中国健康体操が始まります。

その指導員は神戸市シルバー



カレッジでもお馴染みの国際11期生の「松村尚雄」さんです。

この体操の始まった頃は関心の無かった人達も一度体験したら止められないと言う訳で、日々その輪が広がっています。

この体操の正式な名称は「中国健康体操」「錬功十八法」と言うようですが、中国上海市の整形外科医が患者の身体の痛みを取り除く方法として編み出した体操だと言われています。

中国では「中国ラジオ体操」「太極拳」と共に中国三大国民体操として、今や中国だけでなく世界各国に普及しているようです。

松村さんは観音山での指導の他、地域の各種集会の場でもこの体操を指導していますが、白い服を着て指導する松村さんの勇壮な姿は地域の顔として好評です。

北 区 会

花山梅林会近況

園 10 塚本敬三

花山梅林会の最近の活動状況をお知らせいたします。今年の 1 月に東側斜面の三段目までの伐採と下草刈の整備を終了いたしました

花山小学校長のお世話で有馬ライオンズクラブが梅の苗木 150 本贈呈して頂く事が正式に決まり、3 月 13 日午後 2 時 30 分から卒業記念植樹式を行う事になりました。植樹行事には学校、学童、PTA、有馬ライオンズクラブの方々和我々梅林会がサポート役として参加する事になりました。植樹式当日は 4 年生、5 年生、6 年生全員が校庭に集合して、校長先生のお話に引き続き、塚本代表が会の趣旨として皆さんの通学路の安全確保と環境保全そして花山の地名に負けない神戸一の



梅林造りに頑張りますと挨拶、そして有馬ライオンズクラブ代表武内氏が北区の誇りとなる梅林造りのため今後も協力していきたいと厚くご挨拶くださいました。挨拶終了後、各学年が見守る中、各学年代表者により植樹が始まりました。足場が悪い所ですが、初めての植樹を体験して皆さん緊張気味でしたが、楽しそうに作業をしておられました。下から見守る学童の声援が楽しくもあり心強くもあり、大変嬉しく感じました。3 年先には皆で花見を楽しむ事も約束しました。これから苗木が立派に育つように管理していきたいと思っています。

われわれの会では月 3 回程度の作業を行っていますが、何か別の楽しみを作ろうと話が決まり、3 月下旬に伐採したクヌギを利用して「シイタケ」を栽培する事にしました。会員有志の出資で二千個の菌を植え付け雑木林の片隅に保存しております。2 年後が楽しみです。もちろん梅の花や実も楽しみに毎回作業に励んでいます。

花山梅林会は北区会の活動では有りますが、他区の方々も入会は自由です、神戸一の梅林になるよう皆で活動しませんか。

連絡先 園芸 10 期 塚本桂三 591-6436



西 区 会

わ本部業務改革と区会の業務推進への取り組み 生 - 10 國分東洋彦

去る 3 月 29 日、晴天に恵まれて西区会新規加入会員との懇親花見会を西神中央公園にて開催した。蕾も花のうち、九分の今にも咲かんと身構えたその凛とした蕾の下、新会員 15 名、旧会員 10 名、総勢 25 名の大蕾見会となり、各自持参した花見弁当、お酒で楽しく懇親を深めた。西区会も今年度新規会員 25 名を加えると 166 名の大所帯になる。このまま増えていくと 200 名、300 名は目の前である。

本部会員も毎年増加する事を考えると、それに対応した仕組みを作り上げておかねばならないという事で、昨年度「業務刷新委員会」が発足、本部業務の内容、組織を検討してきた。詳細は「情報ぎやらりー」に掲載の通りである。

本部の業務が刷新され木の根幹

は出来た。次はそれに部会、区会がどう対応するかを検討しなければ花咲き、果実の実る大木にはなりにくい。とくに地区会は、会員間の情報交換がどうしても疎になりがちであり、まずはここを改善する必要がある。

そこで西区会としては、西区を 4 つのブロックに区分して情報交換の場を多く作り会員が見える組織を検討してきた。まだまだ不十分なところばかりではあるが今後模索の中で枝葉をつけて行きたい。将来必ず必要となるであろう会員間の相互扶助制度もこのブロック制でフォローしていきたいと考えている。この組織が活性化するには、会員一人ひとりの絶大な協力が必要だし、“わ”の活動を楽しめる企画が重要になる。今回本部に出来た企画委員会も期待されるが、区会自らも早急に検討していかなければならない大きな課題である。今後、このブロック制が充実していけば、各区会間や他のボランティアグループ等との交

流にも広がっていくであろう期待がある。色々なボランティア活動の中に、地域イベントへの参加、会員の花見会、ゴルフ、グラウンドゴルフ、マージャン、ハイキング、カラオケ、旅行、ボウリング、など等、若者に負けない楽しみを持ち、プラス思考で人生を大いに謳歌しよう。

『第 1 回西区ボランティア交流会』に参加して

国 5 西 神林幹夫

西区社会福祉協議会の肝いりで、首記交流会に西区会として参加。西区で活動中のボランティア団体 27、個人活動の方約 16 名、総勢 100 名弱の方が集まり、去る 3 月 5 日西区役所で開催された。

講演会(これは面白くて、示唆に富む)のあと、各自名刺を交換して悩み喜びを語り合う時間を共有、今後の情報交換を約し合う光景も見られた。今後年 1~2 回開催されるようだがお互いの連帯が醸成される可能性を感じた。次回西区会からも大勢の参加を望みます。

環境部会

ここの環境部会活動

生11 - 環 菅田忠志

新しい年度を迎え、いろいろな組織、分野で新たな思いを馳せながらスタートしていくこの時期、環境部会も平成20年度の船出をいたしました。グループわの総会資料でもご紹介しておりますが、みなさんと一緒に活動していきましょう。無理せず身の丈に合った活動が、継続のエネルギーを生み出し、引き継がれていくものと思います。

一部を紹介しますと、

自然環境の保全活動の継続実施・・・ピオトープ、ケナフ、ホタルの飼育、野鳥と自然観察、里山や梅林管理、神出自然教育園支援など部会登録各グループが企画・実施していく活動。環境教育、啓発活動及び支援活動の継続・・・本部主催「自然遊び塾」、環境未来館主催「エコスクール」を通じての地球環境保全の啓発活動。エコ双六やカルタを使っての低学年児童に対する環境教育。脱石油、循環型社会に向けての生成分解性プラスチック「グリーンプラ」の導入支援、啓発、情報発信。森林保全、森林浴効果啓発などを、森林浴ウォークの実施を通じて市民に向けて発信していく活動。

神戸市シルバーカレッジ在校生の環境学習カリキュラムへの参画。

など、従来の活動を継続させながら、さらに新しい風を吹き込むことができるとしております。

さらに今年は特にG8環境大臣会合が5月24日～26日に神戸で開催されることから、その関連イベントも多く、グループわへの協力要請もきております。みなさんの強力なご支援をお願いいたします。

新緑まばゆい森の中で

森林浴を楽しみませんか

『森の仲間』からのお誘い

日一日と新芽が伸び、まばゆいばかりの緑の世界が広がっている今、環境部会の森の仲間が『新緑森林浴ウォーキング』をご案内いたします。

お気軽に参加して、快適な森林浴を体感してみてください。

と き：2008年6月7日(土)

集 合：神戸電鉄北鈴蘭台駅

午前9時45分

コース：神戸市立森林植物園～山田道～神戸電鉄谷上駅

内 容：森林植物園内の森林浴コースを歩きながら、森林のもつ力、そこに育つ野鳥や昆虫・草花の話を森林植物園の方からお聞きます。詳細は、グループわ及びカレッジの情報チラシ置き場にあります。

持ち物：弁当、水筒、雨具など

参加費：無料

申込み：グループわで受け付けます。



グループ紹介

『オアシス』

福12- 文一森美代子

私達のグループは「耳マーク」普及活動をしております。

「耳が聞こえない、聞こえにくい」難聴者・中途失聴者が日常生活の上で人知れず苦勞をし、社会生活の上では数知れない不安や悩みを抱えています。「聴覚障害者」とのコミュニケーションを健聴者として如何にサポートすることができるかとの視点からの活動です。

「耳マーク」とは耳の不自由な人であることを表すマークです。

病院の窓口等に設置されており、「耳マーク」を身につけることで障害を周りの人に知ってもらい、又窓口に置いてもらえれば筆談を頼みやすいです。

とは言え、それほど知られているものではありません。そこで広く行政、公共機関、商店等に設置していただく働きかけをします。このマークを装着した人を見かけたら、ゆっくり目をみて話したり、手話や筆

談をするなどの配慮をお願いします。

「耳マーク」は有料のため、設置には購入をお願いしています。

お問合せは 神戸市難聴協会 ファックス：078-360-6369



福祉部会

障害を持つ子供たちの
「トライやる・ウィーク」に参加して
福祉部会長 横井幸雄

神戸市では中学2年生の生徒に学校を離れて実社会を体験させる「トライやる・ウィーク」を実施しています。5日間の体験ですが、普段の生活では体験出来ないような活動体験を通じて、社会自立、社会参加をする力を養う事をねらいとしています。

障害を持つ子供さんも参加していますがこれには多くのボランティアの協力が求められています。

神戸市立盲学校、青陽西養護学校よりの依頼を受けました。東灘区会、中央区会、垂水区会、西区会、および個人依頼の方々の協力を頂き参加することが出来ました。

参加して頂いた区会および皆様にお礼を申し上げます。

私は全盲で知的障害、肢体障害のある生徒さんとお付き合いしました。

彼の身体能力から握った手の温もりしか気持が通じないように思いましたが、彼は「あったかーい」という言葉と「よっこいさーん」と名前を不自由な言葉で何度も呼んでくれて安堵した気持ちになりました。

彼と二人で電車、バスに乗り、農場、商店の体験をしましたが、体験先の暖かい配慮にも触れました。

お昼はお店の弁当を買って二人で食べましたが、どのように食べさせてあげればよいのか戸惑いの体験でした。

おしっこの世話も戸惑いの体験でした。彼も家庭、学校以外の人と二人だけで行動するのは貴重な体験であったと思います。私も片時も離さなかった手の感触から得た貴重な体験でありました。

家庭、学校のご苦労と大変さも、かいま見る事が出来ました。周りの方々の暖かい支援が必要と強く感じました。

共に生きる、支えあう、活動に
ちからを貸してください。

国際部会

『神戸国際交流フェア』
に参加して
国際部会長 土井昭政

さる3月15日、16日 第12回 K O B E 国際交流フェア 08 が、神戸国際交流センターとハーバーランドデュオドームとスペースシアターで開催された。

グループわ 国際部会は昨年度に引き続いてリレートークと展示に参加した。15日は国際交流センター（国際会館20階）で、午後1時から兵庫県立大学名誉教授の末延先生の“中国などアジアの国々と日本の国際交流”というテーマで基調講演があり、その後、神戸在住の中国、韓国、インド、ベトナム、アメリカの人々による“外国人から見た神戸を語ろう”というテーマでパネルディスカッションがあった。

カレッジではお馴染みの八・テイ・タン・ガさんも参加していた。

14時30分からは“語り会おう世界と神戸”をテーマにリレートークが約9分刻みで実施され、国際部会からは国際コース11期生の川岸昭夫さんが“英語点字による国際交流”というテーマでHPを使い上手に説明された。内容もわかりやすく、また英語点字本の重要性を要領良く説明された。カレッジ事務局から松本リーダーも参加していただいた。

シンポジウム終了後、センターにて参加者による交流パーティーが開催され、国際部会員7名も参加して各団体の方々との交流がはかられた。



16日は、ハーバーランドのデオドームとスペースシアターで夫々関係団体の展示とパフォーマンス、各種物品、食品の販売など、楽しいイベントが開催された。

国際部会は昨年と同様にポスターと写真で、活動内容を展示した。カレッジ、グループわ、国際部会のチラシを日本語と英語で準備し、来客に配布した。フェアへの参加でグループわ および国際部会の活動が市民に少しはPRできたのではないかと考えている。



編集後記

平成20年度のスタート、いつしか葉桜の季節となり、時の移ろいの早さに驚かされるこのごろ本部では5月の総会に向けて、その準備に大忙しです。編集子もやっと1年になりましたが、いつまでたっても未熟で情報収集、投稿依頼のまずさから紙面を埋めるのに四苦八苦しています。特集の本部業務組織の改革で、広報委員会を設置して多くの方の支援を受け、情報誌とホームページを充実したものに上げていきます。幸い、新卒の12期生からKSC情報誌担当経験者の応援を受けることになり心強く思っています。

先号でお約束したアンケート調査も実施するよう準備中です。その節は、ご協力お願いします。(HM)